

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093700070		
法人名	社会福祉法人グリーンコープ		
事業所名	グリーンコープ グループホーム那珂川・和(のどか)		
所在地	福岡県筑紫郡那珂川町片縄北3丁目16-182F		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果確定日	平成30年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成30年2月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○社会福祉法人理念『共に生きる』を基本に、利用者さんの生きてこられた人生に寄り添い『共に過ごし学び支えあう』としています。  
○利用者6名は全員、同じ施設内の小規模多機能ホームから移行の方です。日中は小規模の方と一緒に過ごしているので、賑やかで変化のある日々を送られています。延命治療はせず、最後までゆっくり過ごしたいという利用者・家族の希望を受け、施設で看取りも行っています。  
○地域の中の身近な施設になれる様、定期的なカフェを開催しています。月1回開催し、地域の方・利用者・家族にお声かけ、軽食を準備し、楽しいひと時を共に過ごすようにしています。  
○個別対応が必要な方には、職員間で役割分担し、日々変わる対応には手順書を作成、職員間で共有しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念を定期的に読み合わせながら、気づきを随時話し合い、個々の職員が運営者であるとの意識付けとして職場会議ではその月の収支を報告し、理念の具現化に努めている。夜間不安を訴える入居者を専門医療機関につなぎ、日中笑顔で好きな歌を奏するよう支援したり、セカンドオピニオンから最新医療をうけて褥瘡が改善したり、食事が少なくなり終末期かと思われた入居者は、遠方の家族が来所するまでは主治医にお願いした点滴が功を奏し、経口摂取ができるまでに回復されるなど、良好な医療連携が実践されている。全員が小規模からの入居のため、家族の信頼も篤く、家族の集まりに夫や息子の参加が多く、家族間の情報交換の場となっている。毎月開催しているカフェも定着し、恒例の秋まつりは200名もの参加で賑わい、今回は初めて訪問歯科や薬局の参加があった。「共に生きる」との理念そのものが地域包括ケアだとの理解を深めながら、今後の展開が期待されるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グリーンコープ グループホーム那珂川・和(のどか)**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○職員全員グリーンコープの組合員です。 ○『共に生きる』を基本に、人権・接遇についてはその都度、気づいた時に、話し合うようにしています。 ○基本理念は職場会議等で定期的に取りあわせをしています。	基本理念を定期的に取りあわせながら、気づきは随時話し合い、管理者は職員にその場に応じた指導をしている。職員は理念に共感しながら、日々ケアに励んでいると生き生きとした表情で話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○地域自治会に加入し、掃除・夏祭り、敬老会など行事に参加しています。 ○年に1回、秋祭りを開催し、地域の方を中心にたくさんの方が来てくださいます。他職種連携している事業所の職員さんも参加して下さいました。	中学生の職場体験のお礼状が道路沿いの掲示板、玄関のウエルカムボード等に掲載されている。約200名が参加した秋祭りには今回は初めて連携している訪問歯科や薬局の参加もあり、入居者の見守りをしていただいた。毎月開催しているカフェも定着し、法人本部で事例報告をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○運営推進会議、カフェなどで、認知症の話をしています。 ○中学生の職場体験では認知症の理解と地域包括ケアの話を分かりやすくしています。 ○組合員・地域の方を対象に、介護サポーター講座を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○同じ施設内の小規模と一緒に運営推進会議を開催しています。利用者さんがどんな暮らしを望まれ、今現在どんな暮らしをされているか率直に話ができている。その際頂いた貴重な意見は職場会議などで共有しています。	家族、民生委員、地域区長や地域で活動されている方などの参加で、定期的に行われている。会議では入居者の状況やヒヤリハットなどを報告しているが、参加者が話しやすい場づくりに努めている。	運営推進会議の設置目的に鑑み、個人情報に配慮した会議録を見やすい位置に設置するなど、公表をお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○運営推進会議のメンバーに包括支援センターと介護課の担当者が出席され、報告・連絡・相談できる関係が構築されています。 ○町主催の認知症研修に参加し、情報交換ができています。	地域包括支援センターから相談を受けることも多い。他のグループホームの運営推進会議に参加し、議題に地域の方が話せる話題を取り入れてはとアドバイスし、活気ある会議が行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○玄関・部屋の鍵はかけていません。 ○離床センサー・ベット柵・排泄などは、毎月職場会議で必要性など慎重に検討しています。 ○身体拘束マニュアルに沿って読みあわせをすることで理解を深め、ケアの確認をしています。振り返りも出ています。	職場会議や研修を開催し、其々の入居者のベット柵の場所や離床センサーの必要性の有無など、支援方法の内容を見直している。夜間になると不安を訴える入居者には内服薬の指示があり、転倒予防のためベット柵を使用しているが、本人も安心すると話している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	○高齢者虐待防止マニュアルを作成、職場会議で研修しています。 ○職員のストレスが蓄積されないように努めています。 ○全職員人権研修に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○現在は、成年後見制度を利用されている方はいません ○必要に応じて、相談いただけるよう、研修会に参加したり、相談できる関係は構築しています。	現在は日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用者はいない。以前制度を利用されていた入居者もあり、制度や事業の内容やその違いについて理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○今年度新規の方の2名は小規模からの利用で、契約時に管理者や計画作成担当者が丁寧に説明して、利用者・家族には理解納得して頂いています。○疑問点や不安に思われることは率直に話していただけるよう、関係の構築を日ごろから心がけています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○玄関横に意見箱を設置しています。○運営推進会議・家族のあつまり、カフェなどにお誘いし、家族が意見を話しやすいような雰囲気作りをしています○家族のご意見については、職場会議やミーティングで職員と共有、再発防止に努めています。	全入居者が小規模からの入居のため、家族の信頼も篤く、来所の折には家族背景を考慮しながら日頃の状況を報告している。家族の集まりに夫や息子の参加が多く、家族間の情報交換の場となっている。秋まつりのバザーに品物の提供があったり、植物園見学に同行する家族もある。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○自分たちで『出資・自己管理・運営』している事の確認をして、意識向上を図っています。 ○毎月の職場会議やリーダー会議で業務改善について意見交換をしています。○毎年アンケートを取り個人面談を行い、意見・要望を聞くようにしています。	法人本部で、介護職員処遇改善加算に関するプロジェクトを立ち上げ、公平な賃金体制を話し合っている。職場会議ではその月の収支を報告し、個々の職員が運営者であるとの意識付けを行っている。又、職員の提案で、湯たんぼ使用や加湿器を設置している入居者がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○毎年、働き方アンケート、ストレスアンケートなど行い、面接を行っています。 ○体制加算・処遇改善加算を申請し、それに伴いキャリアパスを明確にし、研修計画を作成しています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○主催する初任者研修受講生や募集チラシを作成し、広く公募をしています。 ○問い合わせについては面接⇒試用期間を経て、採用しています。 ○働き方については、採用時・面接時に聞き取りを行い、ライフスタイルに合わせた働き方を尊重しています。	ロコミで入職する職員もあり、現在常勤を含む25名の職員が其々の生活に応じて就労している。入職後に訪問介護員や介護福祉士の資格を取得したり、好きな食事作りなどに関わりながら、系列サービスに従事する職員もある。法人本部での新人研修は法人全体の事業を把握できる機会として好評である。起居動作の伝達研修は、「目からうろこ」との感想もあるなど、其々の段階に応じた研修が行われてる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○職員・利用者の気づきに対し、職場会議で接遇・言葉遣いなど再確認しています。基本の接遇と、個別性と応用について意見交換しています。 ○全職員が人権研修を受けるため、シフトにも配慮しています。	基本理念の具現化に向けて、法人主催の接遇研修に参加している。入居者や職員が共に生きる関係づくりが実践されている。今後は、子供の虐待にも積極的に関わる予定で、子どもの学習支援を計画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○研修は、事業所の年間計画・個人の年間計画を作成し、目標を立て研修を行っています。○27年度よりケアリーダーを置き、研修会参加・職場内で共有、スキルアップの資格取得も勧めています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	○町内の施設系の協議会に参加しています。 ○県内の同列の施設で毎年、研修を開催し、意見交換を行い、交流も深めています。 ○管理者は管理者会議も毎月開催されています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○まず、利用者・家族が話しやすい環境を作り、傾聴から始めるようにしています。 ○一番大切な信頼関係構築のために、これまでの生活習慣を尊重しながら対応しています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○最近では小規模からの移行の方が多いので、在宅生活からの関係が構築されているため、比較的スムーズに信頼関係が出来ていると思います。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○まず、生活スタイルの観察、利用者さんの状況を把握し、柔軟に対応できるように努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○『共に過ごし学び支えあう』を基本に、その人の生きてきた人生に寄り添い、一緒に泣いたり笑ったりしながら、時間を共有することを心がけています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○利用者さんがその家族と今までどんな関係だったのか、どんな関係が良いのか、アセスメントをとりながら対応しています。 ○家族が日頃から意見・要望が言える環境、雰囲気づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○元の地域の老人会の定例会の送迎。馴染みの美容室への送迎。病院の送迎。家族と相談しながら対応しています。 ○施設のある地域で行われる行事には、積極的に参加しています。	以前住んでいた所の老人会の忘年会や個人主催のサークルのコーラスの参加、行きつけの美容院などの利用を支援している。また、近隣公民館の夏祭りに参加している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○現在男性が1名おられますが、他の女性利用者と上手にお付き合いされてます。 ○自室にこもりがちな女性には、フロアでの食事や気候のいい時はドライブにお誘いしています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○サービスが終了されても、家族が施設に寄って下さる方、魚釣りに行かれ、魚を持ってきてくださる方、お祭りに来てくださる方などいらっしゃいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○その人が今までどのような暮らしをされていたのか、アセスを本人・家族からとる様になっています。 ○食事を自室で召し上げる方もあります。 ○新聞を取られている方も2名。テレビを置かれている方は5名。(日常的にみられている方は1名)	アセスメントシートを整備し、日々の気づきをミーティングなどで共有している。夜間不安を訴える入居者の行動の背後にある思い、家族の不安、要望について、話し合いを重ねている。日常の過ごし方、食事時間や場所、就寝時間もその時々々の要望に応じている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○ライフサポートプランを導入しています。 ○夜勤時などテレビを見ながら昔話を聞いたり、毎年1回担当を決め、「私の暮らし方シート」を作成しています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○主治医・家族との連携で病歴などの把握に努めています。 ○バイタル・水分・排泄・体重等観察は密にしています。排便に関しては特に気をつけています。 ○1日の過ごし方はライフサポートプランを活用し、心身の状態、有する力に変化があれば都度検討しています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○ライフサポートプランを使用しています。 ○支援に関しては、本人・家族の意向を反映しています。 ○家族の面会時や職場会議等でもその人らしく暮らすための課題を話し合っています。	夜間不安を訴える入居者が日中笑顔で好きな歌を楽しめることを目標にチームケアに取り組んでいる。夜間の対応手順を作成しているが、夜間頻回なコールの対応を記録している職員の心労を共有し、現状に即した介護計画を今後も作成予定である。	入居者に処方された薬の効能に職員や家族が戸惑い、迷う現状をそのまま受け入れ、入居者とともに生きるとの理念の具現化を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○個人の提供記録に短期目標をを明記、その日の様子や気づきを記録、報告し、介護計画の達成や見直しに努めています。 ○利用者によっては日々変化する対応には手順書を作成、情報の共有をしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○その人の生活に合わせた個別ケアができるように支援しています。(外出・食事・美容など)特に食事に関しては、その方の状態に応じて、食事担当スタッフと相談、速やかに対応できています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○その人が住んでいた地域との関係を大切にしながらの暮らしが継続できるように、町内の方・シニアクラブ・民生委員等と連絡を密に取りながら支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○訪問診療利用3名 ○馴染みの主治医への通院介助1名 ○家族と一緒に介護タクシーで通院介助1名○家族と一緒に通院1名です。緊急時は事業所に対応しています。	夜間不安を訴える入居者を専門医療機関受診に繋げたり、セカンドオピニオンから最新医療をうけて褥瘡が改善するなど、家族とともに適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師も共に働く仲間として報告・連絡・相談できる関係にあります。身体状況の変化について、共有し、必要に応じて家族・医療に連絡し異常の早期発見に努めています。 ○夜間、緊急時も看護師に相談できるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入退院時は必ず、職員が同行します。 ○入院時も状況把握のため病院訪問を行い、退院に備えます。 ○退院時には必ずカンファレンスに参加し、情報交換をしています ○今年度入院された利用者さんが全く食事を摂取されなかったため、病院と連携して、食事介助に行きました。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○入所時に左記の内容について十分に説明し本人・家族の意向についてお聞きし、同意書を頂いています。 ○グリーンコープの福岡県の施設研修で、各事業所の看取りについて事例発表しました。意見交換も活発に行われました。	食事が少なくなり終末期かと思われた入居者は、遠方の家族が来所するまでと主治医にお願いした点滴が功を奏し、経口摂取ができるまでに快復された。今回は入居者が意図的に食事を摂らなかったのではとの意見もあり、入居者の思いを洞察することが課題となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○研修計画に沿って研修をしています。○身体状況については、その都度看護師・医者からの状況説明を共有し、対応について学習し、利用者さんが、より安心できるケアを心がけています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○年に2回、消火・通報・避難訓練を行っています。 ○研修計画に沿って研修も実施しています。 ○運営推進会議でも議題に上がり、協力体制はできています。	毎年、防火に関する査察を地区消防署が実施している。法人本部に煙探知機設置を申請し、設置待ちの状況である。また、災害時の避難所として法人本部や地域の了解を得ている。3月には作成した風水害対策マニュアルに沿った訓練も予定している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○研修計画に沿って研修を開催(接遇・人権) ○プライバシーや人権については毎月の職場会議などでもよく話し合われています。「その人に寄り添い、受け止め、大きな声を出さない。適度な距離感を持ち、言葉は丁寧語。」常日頃みんなを確認しています。	小規模と同じ場所での昼食では、個々の入居者に応じた丁寧な声かけや対応が行われている。夜間頻回にコールする入居者に丁寧な対応を実践しているが、他の入居者から労いの声かけがあった。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○その人の個性が引き出せる施設となるため、に寄り添う事を基本に『個別ケア』『待つケア』を心がけています。○気兼ねない空間として、最近では、利用者同士の関係づくりを基本に考えるようにしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○枠にはまった支援ではなく、その人の生活に添った支援ができるようにしています。 ○起きる時間も寝る時間もまちまちです。 ○好き嫌いにも添えるようにしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○洋服、ご自分で決められる方は2名。○ご自分でお化粧される方2名 ○行きつけの美容室に行かれる方2名○有償ボランティアでの美容は3名○美容師の家族の方の理容1名です。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○グリーンコープの新鮮で安心な食材が中心です。○お茶碗を拭いてくださる方・洗濯物をたたんで下さる方が2名あります。気分の乗らない時は無理はされないように配慮しています。	食事摂取量に応じて半消化態栄養剤を補給したり、自室やテレビを見ながら食事する入居者もある。生協で好物のケーキを注文する生協の組合員の入居者や、回転饅頭を他の入居者にふるまう入居者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事は1500kcal水分700mlを基準とし、利用者さんの状況によって、量・食事形態(おかゆや刻み食・トロミ食等)にもすぐに対応できています。 ○食担の職員は食の研修を率先して受講しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○その方の状況に応じて口腔ケアを行っています。 ○訪問歯科を利用して定期的にケアをされている方もいます。 ○昼食前の口腔体操・毎食後、就寝前の清掃・入れ歯殺菌を行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	○自立の方は1名。○尿漏れ等で、リハビリパンツの方が5名。(内2名は布パンツでしたが、骨折等のため、最近リハビリパンツをはかれています)○定期的に誘導を行い、失禁なしの方もいます。	日中と夜間、定期的誘導で個別の手順書にそって排泄支援がなされている。排便後の介助に敏感に反応する入居者もあり、言葉使い、関わるタイミングが難しいと試行錯誤しながら関わっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○排便記録は個人記録や引継ぎノート、業務日報で把握、最終排便には特に配慮し、排便リズム・食事量・水分量に注意するとともに、主治医にも相談し、必要に応じてお薬を処方して頂きます。 ○安全で新鮮な野菜中心の食事です。おからもよく使ってます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	○入浴は1人づつ入って頂いています。○最低週1回～2回としていますが、状況に合わせて、入って頂いています。○入浴の際、こだわりのシャンプー類や湯上りのこだわりなどある方はそれを尊重し、気持ちよく入って頂けるよう声かけもしています。	小規模のお風呂で入浴することが多いが、2階のホームの浴室で便失禁などに対応している。10日に1回入浴したり、好きなシャンプーを使用するなど、入居者の心身の状況や好みに配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○起床・就寝の時間は、決めていません。 ○自身の部屋を中心に過ごされる方は2名です。 ○ほぼ決まった時間にベッドで休んで頂く方は2名です。 ○昼間は1Fフロアで過ごされる方もいます。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○受診時・往診時は、同席し様子の報告や薬の把握に努めています。○薬の管理は基本看護師の仕事とし、作用・副作用について、学習しています。 ○正確な服薬支援のため確認・声かけを重ねて行い、誤薬の予防に努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○唯一の男性は温厚な方で、上手に他の女性利用者さんと上手に付き合っておられます。○102歳の方は年々穏やかに生まれ、声をおかけすると笑顔で対応して下さいます○小規模の方とのドライブは楽しみにして下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○家族が見えて外出される方が3名○介護タクシーで家族と病院に行かれる方が1名。○ドライブに行かれる方3名。○家族の面会が定期的に行われています。○地域の夏祭りにはスタッフと一緒に出掛け、縁日気分を味わってられます。とても楽しそうです。	車イスの入居者や102歳の入居者もあるが、小規模の利用者とドライブに出かけたり、公民館行事や地域の集まりに参加している。歩行困難があっても、らせん階段をあるいつもの美容室を利用する入居者あり、今までと変わらずにという思いが、外出や行動の原動力になっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○ご家族の希望で一万円程度お持ちの方もおられますが、管理はしていません。○定期的な受診の際、コンビニでお買い物を楽しまれている方がおられます。○皆さんに振る舞うことがお好きで、所持金で回転饅頭を買われる方もいます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○家族への連絡専用携帯電話を持たれている方が居ます。基本ご本人にお任せしています。○家族からはがきが届く方が1名います。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○落ち着いた空間を演出できるように努めています。季節感が出るようなお花や飾り付けをして話題づくりをしています。○臭いにも注意をし、換気や原因の除去に努めています。	季節のお雛様や縫いぐるみが置かれた玄関で、出迎える職員の笑顔が「のどかさん」の看板となっている。空調管理や防臭に配慮した小規模の共用空間は、全員が規模からの入居のため、昼食時の小規模の利用者の手踊りや会話などのざわつきが心地よい程、馴染みに環境となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○新しい方が入られたときは、座る場所など様子を見ながら決めています。ソファの位置など模様替えも行っています。○自然に座る場所が定着、お互いを尊重されている様です。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○居室は本人・ご家族の希望で、自由に荷物を持ってきて頂いています。○冬季は乾燥に留意し加湿器を置いて風邪予防に努めています○テーブルコタツを持ってこられランプをしてある方もあります。	テーブルコタツの上に好物のチョコレートやお好みお茶が用意されたり、ベット傍の机に文庫本や夜間使用する痒み止めが置かれたり、タッチアップを設置したりと、個々の生活スタイルを支援している。宿泊したり、衣類や日用品を整理する家族も多く、居心地よい居室づくりが行われている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○自立支援の立場から、生活リハビリを大切にしています。○利用者の気持ちを聴く。感じる。予想する。共に自分らしく楽しく、のんびり余生を過ごして頂きたいと思っています。		